

事務事業名	文化芸術自主事業実行委員会支援事業				☒ マニフェスト関連		☐ 全庁横断課題関連		
政策名	総合計画 04	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課	
施策名	21	生涯学習の推進			所属係	生涯学習班	課長名	野本立一	
基本事業名	77	学習・スポーツの啓発			担当者名	渡辺良輔	電話番号 (内線)	248-5555 1503	
予算科目	会計 01	款 10	項 05	目 06	事業	文化振興事業	法令根拠	合志市文化芸術自主事業実行委員会要綱・会計規則	
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 (開始年度 7 年度 ~) (年度 ~ 年度)								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)			
(事業の内容) 自主事業実行委員会を組織し、年間の事業の企画立案・事業の実施を行う。 (業務の内容) 自主事業実行委員会の組織、年2回程度の実行委員会会議の開催、企画・立案、事業の実施、会計監査、事業実績報告書の作成・検証。 (予算の内訳) 自主事業実行委員会予算						総投入量	事業費	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計 (A)	0
							人件費	正規職員従事人数	
								延べ業務時間	
								人件費計 (B)	0
							トータルコスト(A)+(B)		0

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)
実行委員会を1回開催し、自主事業を10回実施。

19年度計画(19年度に計画している主な活動)
実行委員会を3回開催し、自主事業を10回予定している。

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等
市民

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)
市民が文化芸術活動に興味を持つ場を提供する。

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)
学習やスポーツに取り組むことの必要性を認識できる
施設や学習内容を知ることができる

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない

名称 単位
ア 開催回数 回



イ

ウ

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない

名称 単位
ア 人口 人



イ

ウ

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない

名称 単位
ア 興味を持った人数(入場券購入者数) 人



イ

ウ

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない

名称 単位
ア 学習やスポーツに取り組んでいないが今後取り組んでみたいと思う市民の割合 人



イ

ウ

(2) 総事業費・指標等の推移

				単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	年度 (最終目標)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	3,946	3,094	400	2,900			
			都道府県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円	7,837	7,789	8,461				
			一般財源	千円	12,000	10,000	13,500	11,000	10,000	10,000	10,000
			事業費計 (A)	千円	23,783	20,883	22,361	13,900	10,000	10,000	10,000
	人件費	正規職員従事人数	人	4	4	4	4	4	4	4	
		延べ業務時間	時間	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	
		人件費計 (B)	千円	3,750	3,750	5,955	5,955	5,955	5,955	5,955	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	27,533	24,633	28,316	19,855	15,955	15,955	15,955	
活動指標		ア	回	9	10	10	8				
		イ									
対象指標		ア	人	52085	52695	53303	53909	54518	55124		
		イ									
成果指標		ア	人	4514	5332	3890					
		イ									
上位成果指標		ア	人	8373	6229	3685					
		イ									

事務事業名	文化芸術自主事業実行委員会支援事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	-------------------	-----	----------	-----	-------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
平成7年11月に総合センターのオープンに伴い、文化会館の活用と文化芸術の振興を目的に自主事業が始まっている。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？
平成7年11月から文化会館の活用と文化芸術の振興を目的に自主事業が始まり、実績は十分であるが、合併に伴う対象人口の増加、啓発手法の変化に伴い、来場者数減少の現象が見られる。
また、ジャンルによって入場率にばらつきが見られる。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
来場者のアンケート調査を集計してみると、大半が良かったという意見であるが、一部で新ジャンルの要望がある。
入場者数が少なかったときにはアンケートで「広報・周知の徹底」の要望が強く見られる。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 生涯学習を推進する上で市民への啓発の手法として不可欠と考えられる。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 貸し館事業(営利事業)は、営利目的のため、高額な入場料になり一部の市民にしか還元できないことから、公共性を高め、安価で多様な多くの市民に提供できる。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象、意図とも現状で適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 広報周知の更なる努力を図り、集客の向上に努めなければならない。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 市民総参加を掲げ、生涯学習を推進する中で、誰でも気軽に参加できる文化芸術活動の場が失われ、文化的ゆとり教育が衰退する恐れがある。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ⇒【理由】(具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 他に類似した事業が無い。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 映画上映については、近隣に上映館が出来ており、見直し、若しくは中止を検討する。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 技術管理委託により、高度な舞台技術操作と職員の勤務時間の軽減を図っている。平成18年度の実績を検証し、目的に沿った業務充実を実現する。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 実施計画についても、情報の収集により適正に進め、全市民を対象に啓発し、入場者の意見聴取した上で実施している。

合志市

事務事業名	文化芸術自主事業実行委員会支援事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	-------------------	-----	----------	-----	-------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

広報周知の更なる努力を図り、集客の向上に努めなければならない。
映画上映については、近隣に上映館が出来ており、見直し、若しくは中止を検討する。
技術管理委託により、高度な舞台技術操作と職員の勤務時間の軽減を図っている。平成18年度の実績を検証し、目的に沿った業務充実を実現する。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☒ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

事業の効率性を高め、広報活動を強化し集客向上に努める。

(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		○	
	維持			×
	低下		×	×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 市民ニーズの的確な捉え方。

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項